



ひかりいっぱい新聞

「コロナ」と私達は闘っています～当院の対処法～

院長 山川 良治

過労、ストレス、眼の酷使をかわしながら生きる

誤解の多い甲状腺眼症の診断と治療 その③ 名誉理事長 木村 徹

新型コロナ感染対策として電話・オンラインによる診療を行っております



「コロナ」と私達は闘っています ～当院の対処法～

院長 山川 良治

中国の武漢市で報告された新型コロナウイルスによる新型肺炎は、あっという間に全世界に拡がり、感染者の増加、それによる死者の増加、そして社会的・経済的・政治的な面で世界中に混迷を深め収束が見えない状況です。木村眼科内科病院でもその影響は甚大で、何よりも患者さんや職員の感染リスクを考えると、今までのように診療・手術を続けてよいものか、緊急以外は行うべきではないかといったところまで話し合われていました。

特に日本医学会連合、日本外科学会など外科関連の10学会は4月1日、「新型コロナウイルス陽性および疑い患者に対する外科手術に関する提言」を発表し、眼科は白内障手術を延期すべきという外科手術トリアージを提言しました。

しかし、これとは別に日本眼科学会は地域の実情に応じて診療・手術を行うべきという提言があり、幸い呉市はその当時、感染者1名と少なかったので、見えない人を早く見えるようにするのが患者さんのクオリティオブライフに貢献し、むしろ感染予防に役立つと考え、できる限り患者さんの希望に沿えるように考えました。

そこで、当院といたしましては、考え得る最良の感染防御に努め、日常診療・手術を継続しています。具体的には

- ① 職員は私生活も不要・不急の外出を控え、体調管理に努め、毎朝検温を行って確認しています。万一発熱、風邪症状がある場合は、すぐに内科医と相談し対処することにしています。
- ② 職場においてはマスク着用、フェースシールドまたはゴーグルを着用し、診察・手技には手袋を着用しています。手指消毒を徹底するため、洗剤による手洗い励行、アルコール消毒を行っています。
- ③ 液道疾患の処置・手術は、コロナウイルスが鼻咽頭に存在する可能性があるため延期しておりましたが、7月から一部解除しています。しかしながら感染状況によっては変更となる可能性もございます。



採血中

オンライン診療中



により換気がされていますが、プラス玄関や窓を開けての換気を行っております。

一方、患者さんや付き添いの方にはご迷惑をおかけしますが、以下のことをよろしくお願い致します。

ナースステーション



- ① 入院患者さんの面会禁止、入院・退院時の付き添いは1名にしていただいております。
- ② 来院される前に検温等で体調をご確認いただいた上でお越し下さい。普段と少しでも体調が異なる場合は来院前に電話(0823-22-5544)をお願い致します。
- ③ 受診時にはマスクの着用をお願い致します。着用されていない場合は受付で検温をお願いしております。外来患者さんで付き添い者が必要な場合は原則1名までとさせていただきます。

- ④ アルコール手指消毒剤を玄関から入られたすぐの場所に設置しておりますので手指消毒をお願いします。消毒剤にアレルギーのある方は玄関を入って左手に洗面台がございますので手洗いをお願い致します。

当院と致しましても、新型肺炎のコロナウイルスはワクチン、または特効薬が開発されない限り抑え込むことはできないと考えています。この戦いはしばらくの間は続きます。

幸い、院内からは感染者が出ておりせんが、今後の第2波・3波に備え気を引き締めて、今後も感染防御に努めて行きたい所存です。皆様にはご不便をおかけすることもありますが、ご理解の程、よろしくお願い致します。

ご協力をお願いします



過労、ストレス、眼の酷使をかわしながら生きる

誤解の多い甲状腺眼症の診断と治療 その③

名誉理事長 木村 徹

甲状腺眼症発症の三つの要因

私は、過労、ストレス、眼の酷使が要因だと考えています。

例えば一日中パソコンで事務仕事をし、そのうえ親の介護が重なっている方とか、深夜も運転をする長距離トラック運転手、授業のほかに長時間の事務仕事に追われる学校の先生などです。ところが、この病気の方で眼の酷使が悪いことに気付いておられない方も多く、仕事以外で何時間もスマホを使っていらっしゃる方が少なくありません。

今はコロナでテレワーク、オンライン授業が求められている世の中ですが、そのうえ家でのストレス解消として、スマホやテレビを見て楽しむのはやむを得ないかもしれません。しかし眼を酷使すれば望ましくない

結果をきたすのも当然のことではないでしょうか。

本症は自己免疫の病気なので治りにくく慢性化しやすいので長く付き合っていく必要があります。

対処法は、まず自分の眼は自分で守るという決心をしていただくことだと思います。



眼の異常サインに注意

眼瞼のむくみ、白眼の充血、眼の奥の違和感や痛み、物がダブって

見える、焦点が合わないなどに気付いた時は眼と体を休めて下さい。

仕事の合間に休憩を入れてストレッチをしたり、家ではスマホやテレビを見る時間を制限して軽い運動をしたり、眼を温めたり冷やしたり、充分な休養と睡眠をとるなどして出来る限りの節制をして下さい。実際には理屈通りにはいきにくいと思いますが、いくら炎症を抑えるステロイド薬を使っても休養に勝る薬はないのです。

人生100年時代に自分の眼を最後まで大切にして下さい。



